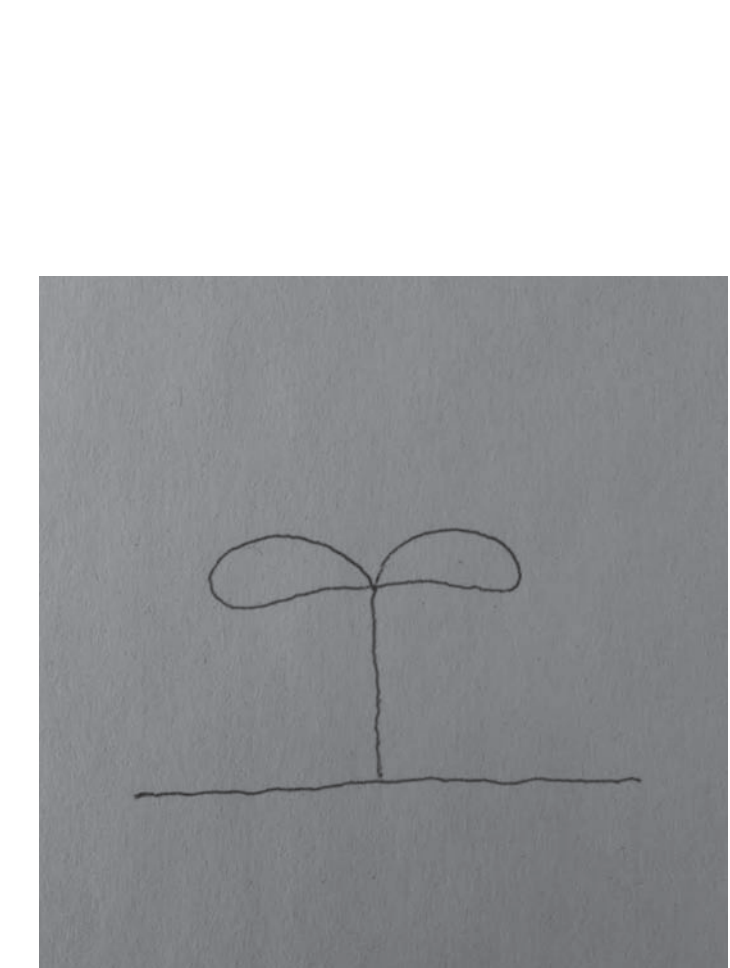
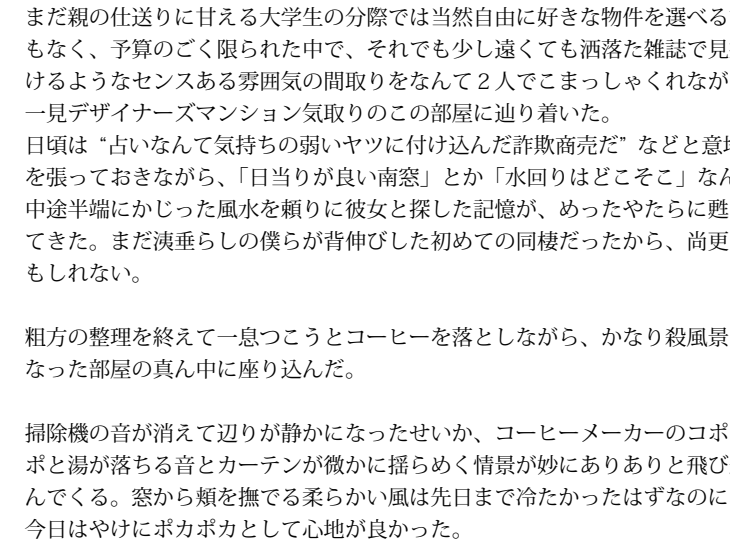
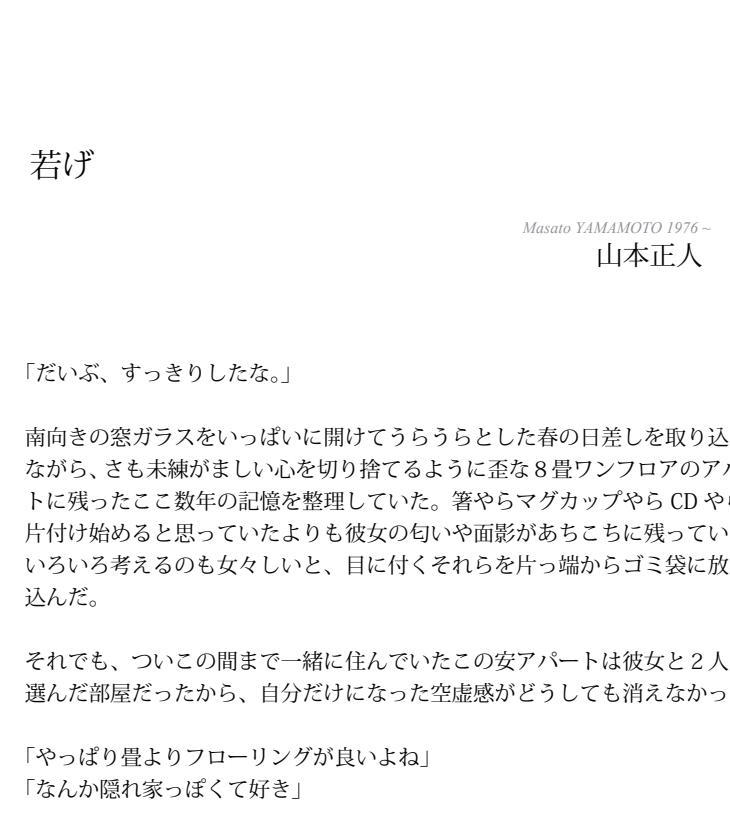
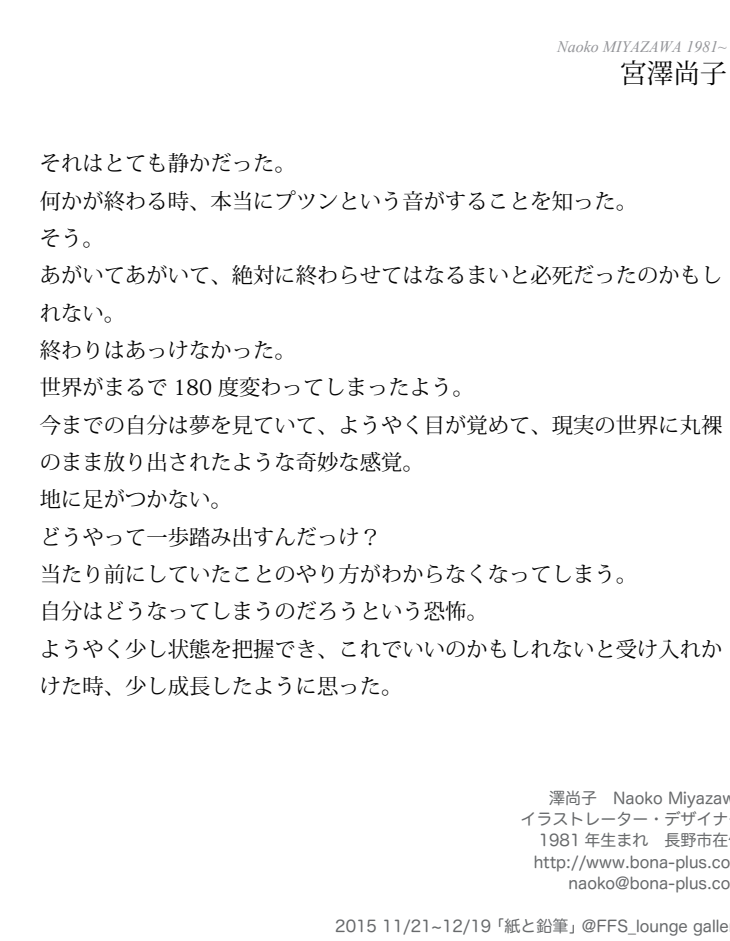


分枝



芽



彼女と初めて会ったのは私が大学2年生の時、ちょうど今日のような新年の季節だった。いや、同じ年だった上の学年にいたから正確にはもっと前に逢ったのだのかもしれないけど、ずっと女子学生だった彼女はそのらの付き合いで忙しく、科の集まりに全く顔を出していなかったんだ。

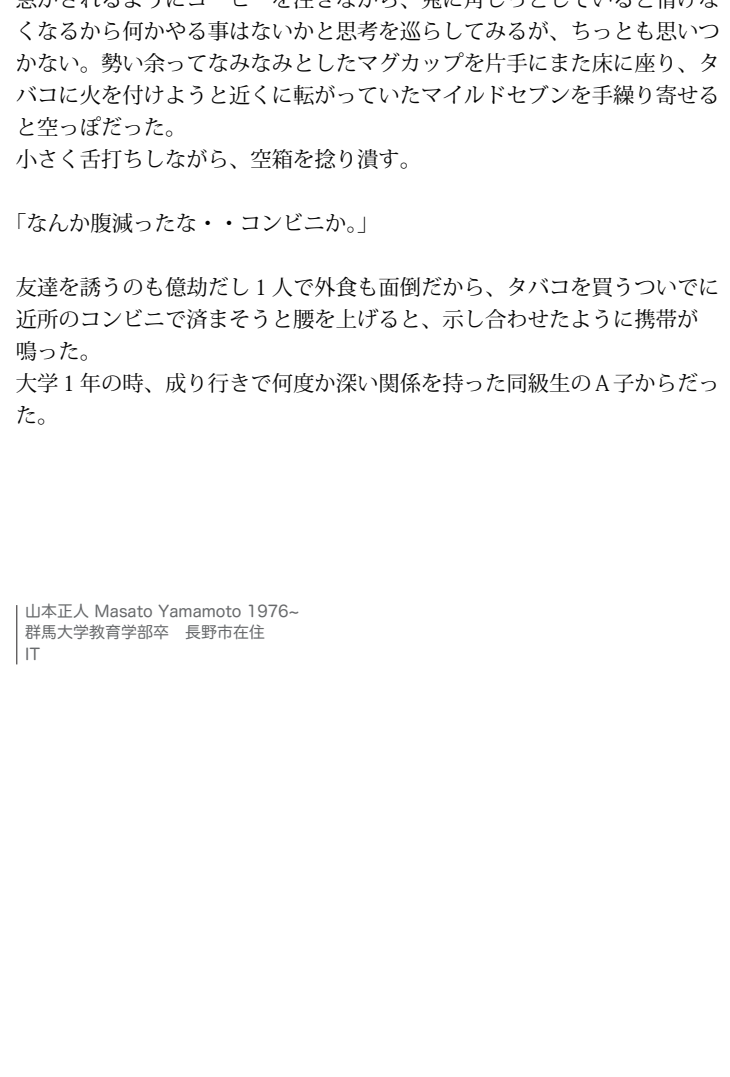
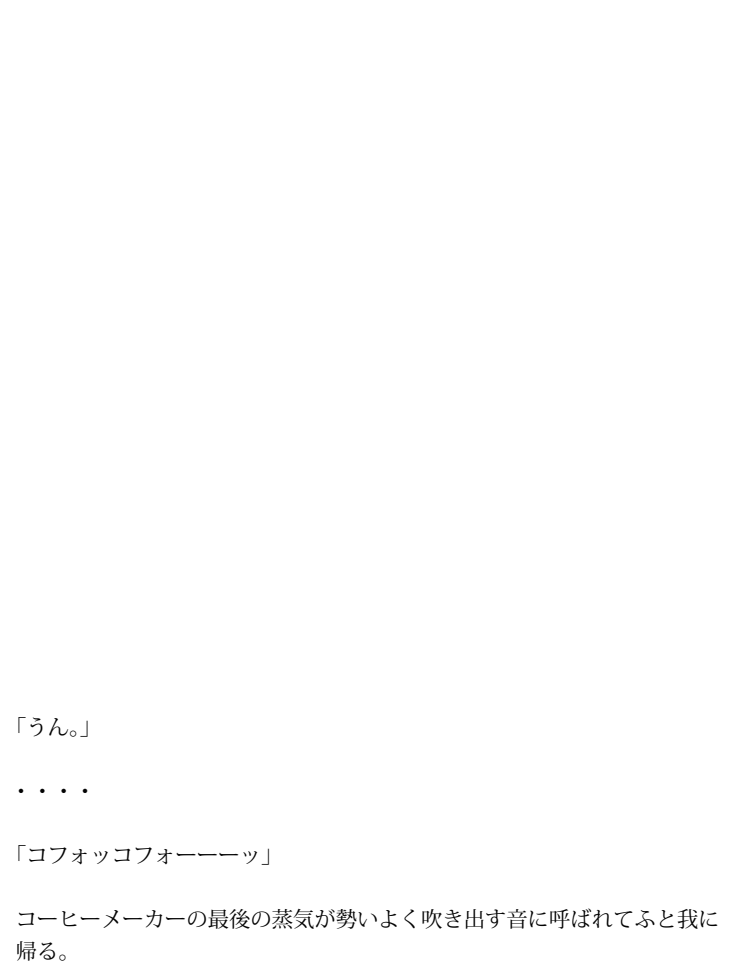
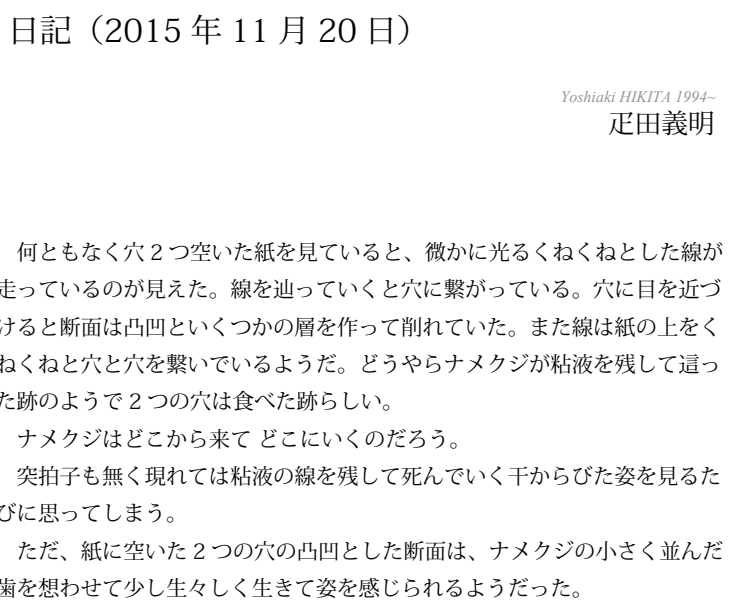
あの日、単位のためと仕方なく受けていた気合い満張りが終わる時何事もごとく溜まり場の研究室に入るとそこに、ランバン車と思わせるような濃い紫色の髪をした彼女が座っていた。

「あれ？・こんにちは・」

こんな子だったっけ？と入学から今までの記憶を隈なく辿ったが見当たらなかった。というより、もし一度でも接していれば忘れえるはずがないと暗黙に思っ

「山本くん、この子可愛いでしょ〜」

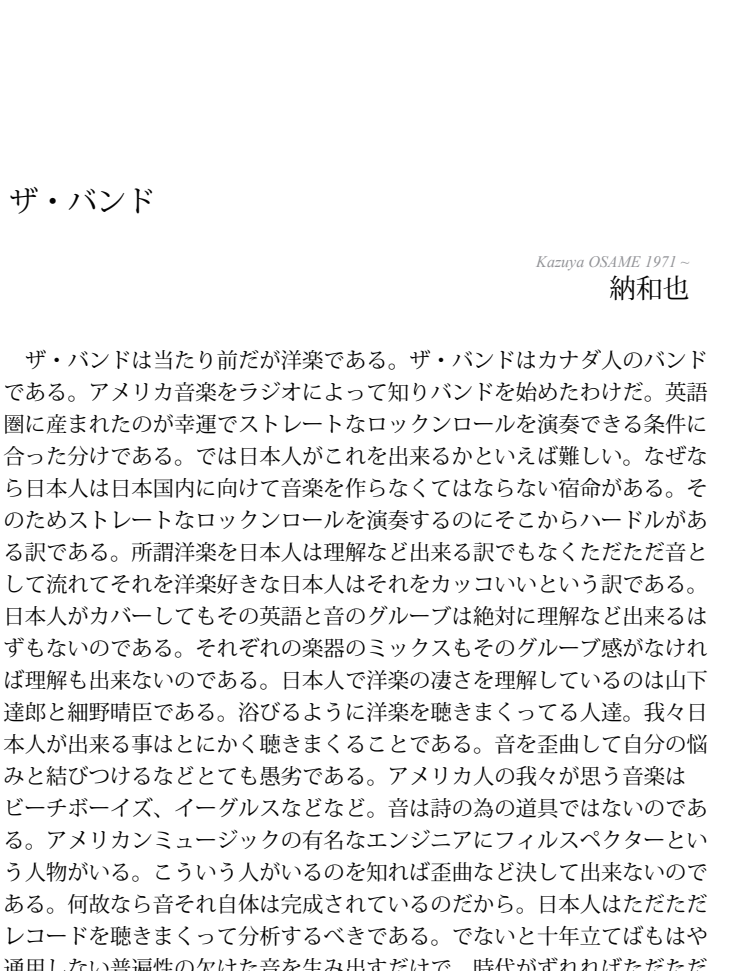
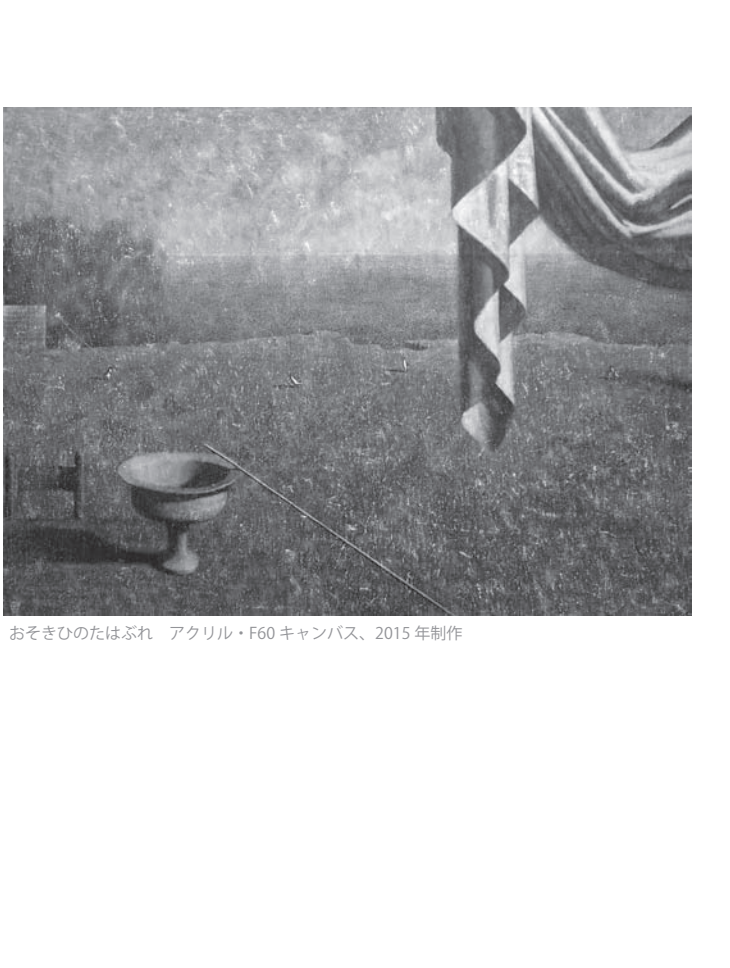
隣に座っていた溜まり場常連の4年女子がまるで自分の宝物をひけらかすかのように発した言葉に、彼女は少しはにさんだ顔を見せる。その投入目によかしい表情を目にした私は、恥かしさまで忘れて真顔で返答をしていた。



彼女と初めて会ったのは私が大学2年生の時、ちょうど今日のような新年の季節だった。いや、同じ年だった上の学年にいたから正確にはもっと前に逢ったのだのかもしれないけど、ずっと女子学生だった彼女はそのらの付き合いで忙しく、科の集まりに全く顔を出していなかったんだ。

あの日、単位のためと仕方なく受けていた気合い満張りが終わる時何事もごとく溜まり場の研究室に入るとそこに、ランバン車と思わせるような濃い紫色の髪をした彼女が座っていた。

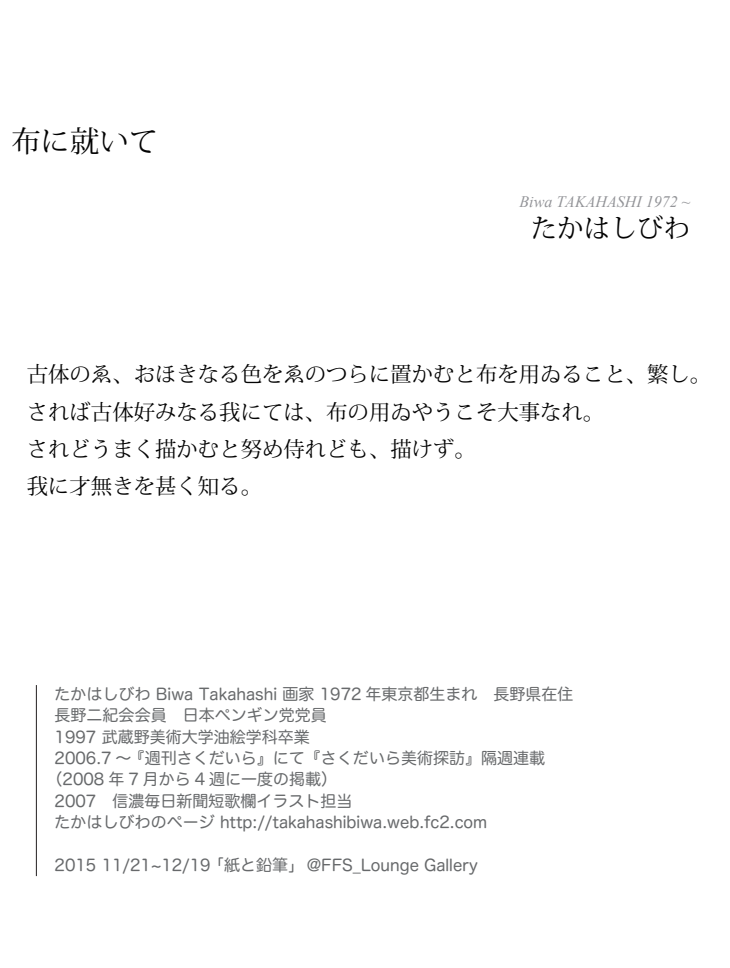
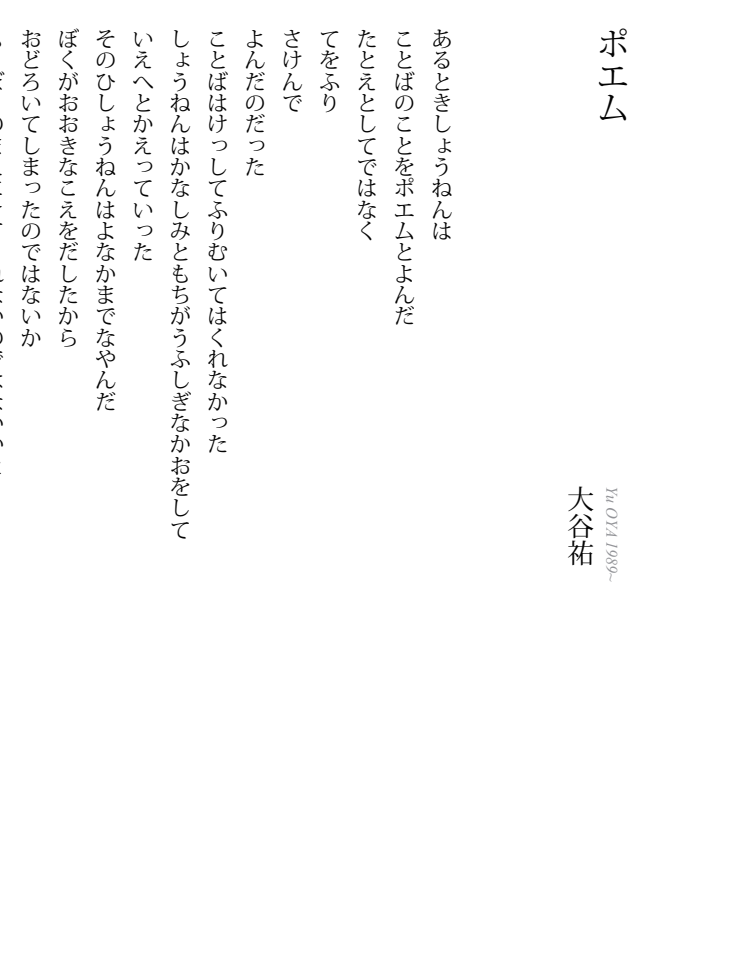
「あれ？・こんにちは・」



彼女と初めて会ったのは私が大学2年生の時、ちょうど今日のような新年の季節だった。いや、同じ年だった上の学年にいたから正確にはもっと前に逢ったのだのかもしれないけど、ずっと女子学生だった彼女はそのらの付き合いで忙しく、科の集まりに全く顔を出していなかったんだ。

あの日、単位のためと仕方なく受けていた気合い満張りが終わる時何事もごとく溜まり場の研究室に入るとそこに、ランバン車と思わせるような濃い紫色の髪をした彼女が座っていた。

「あれ？・こんにちは・」

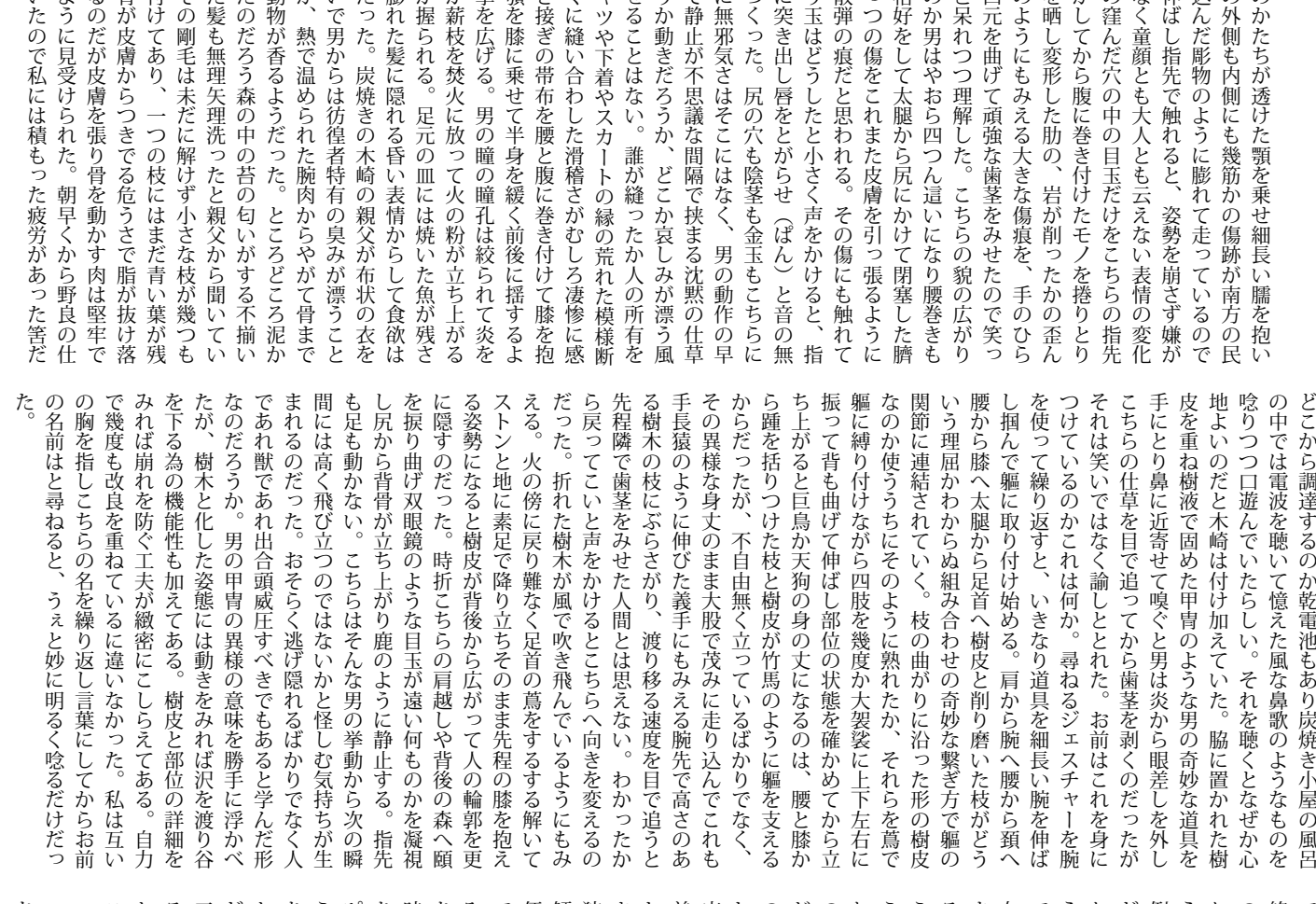
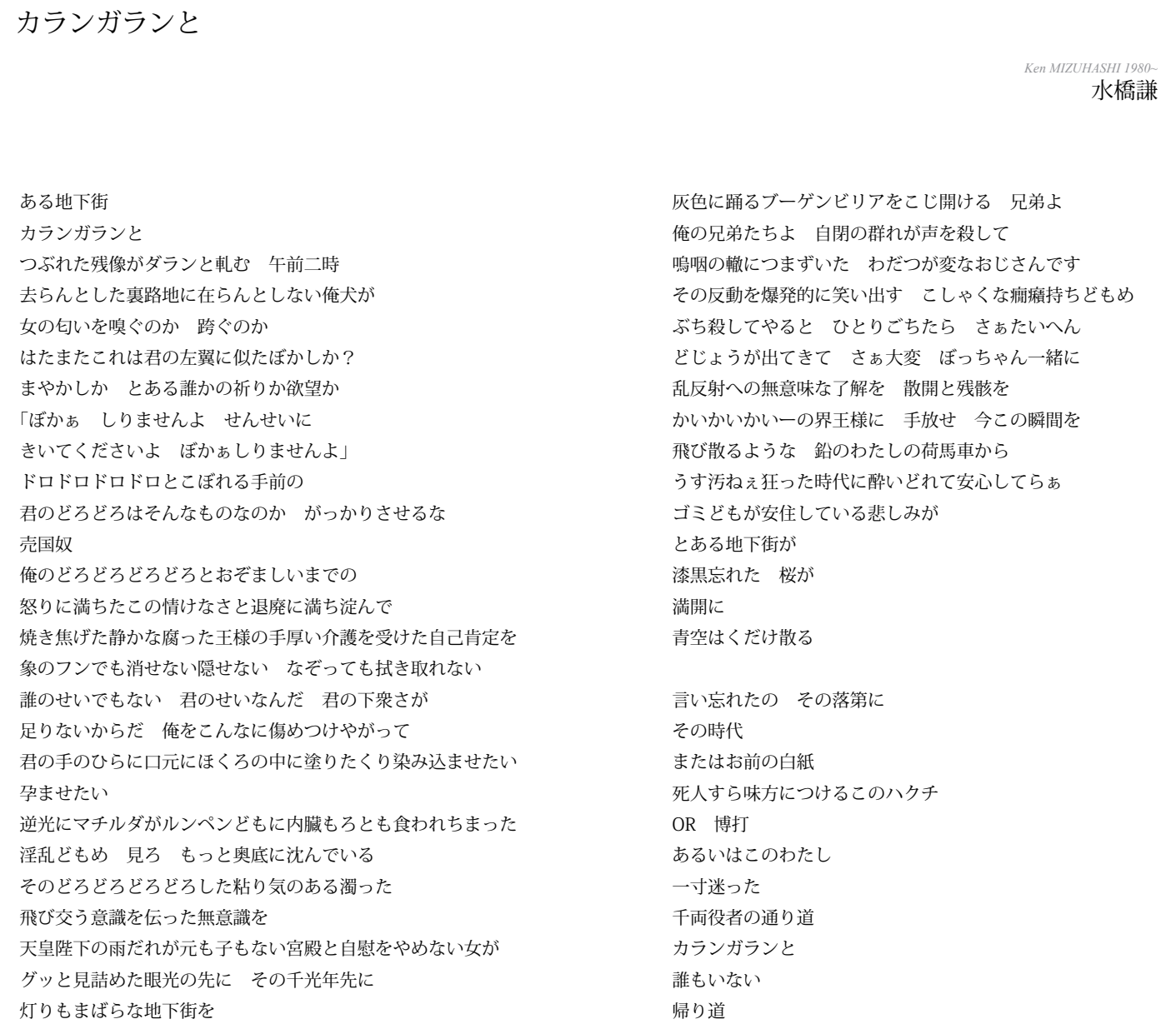
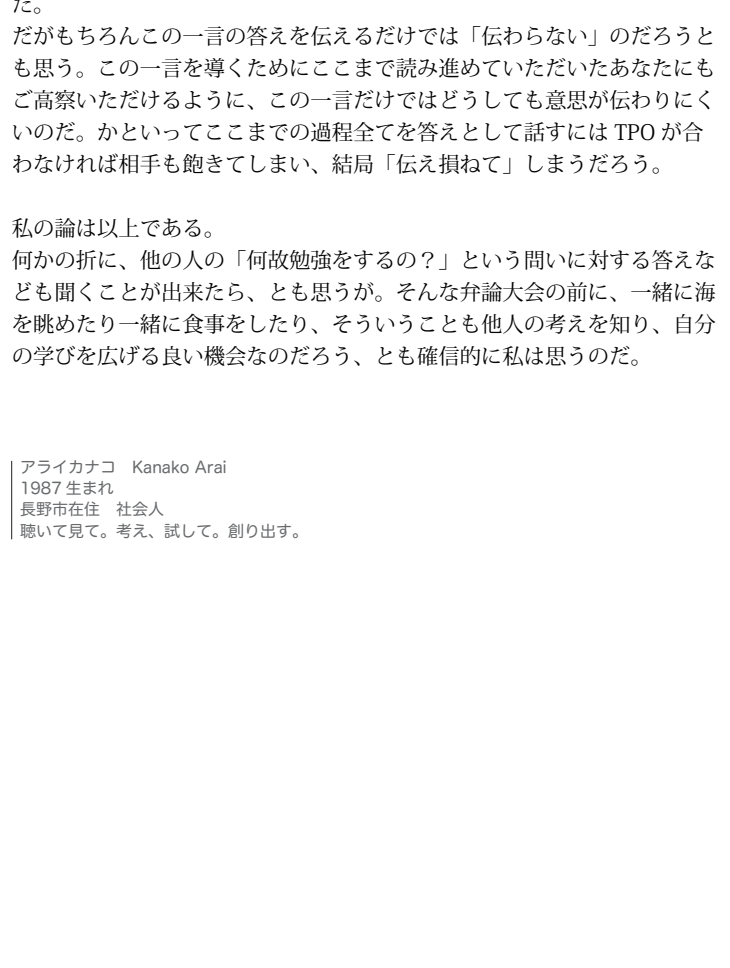
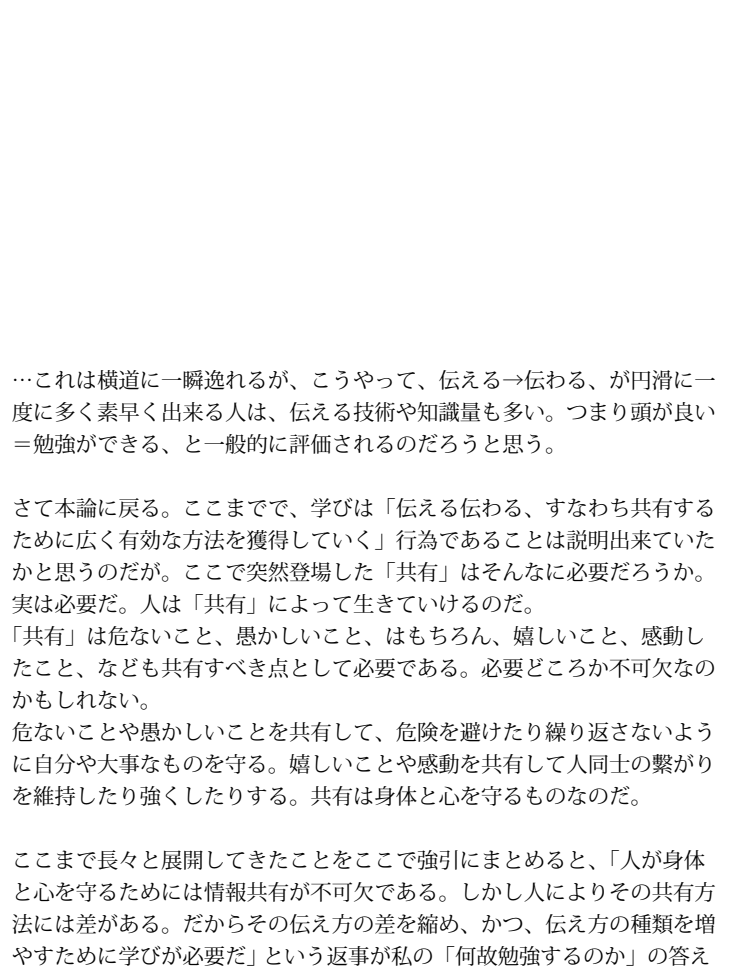
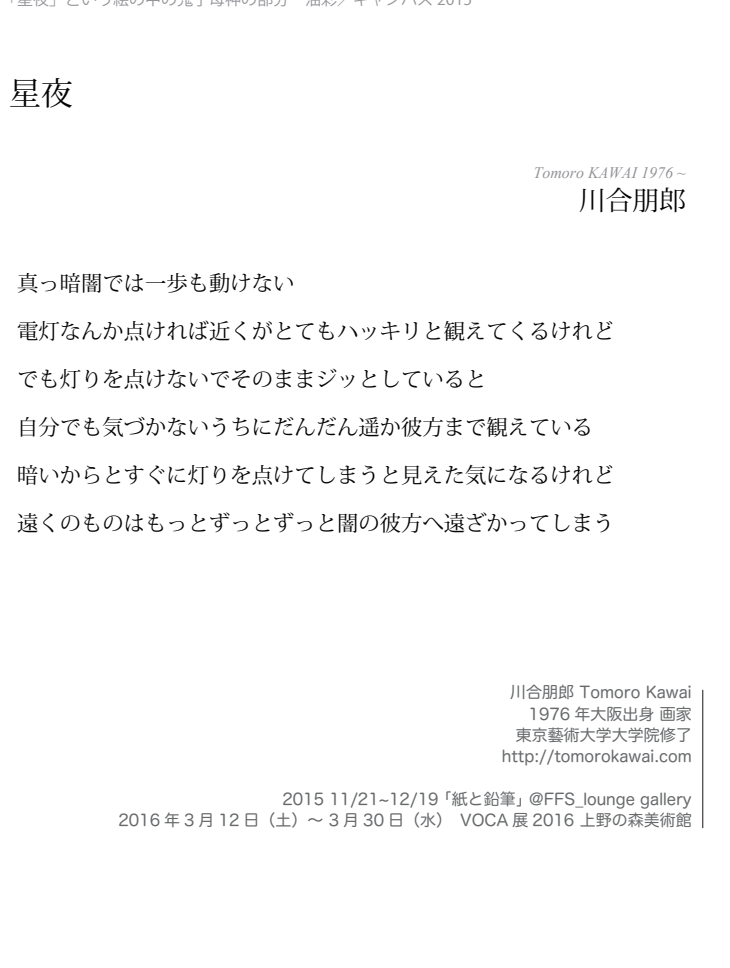
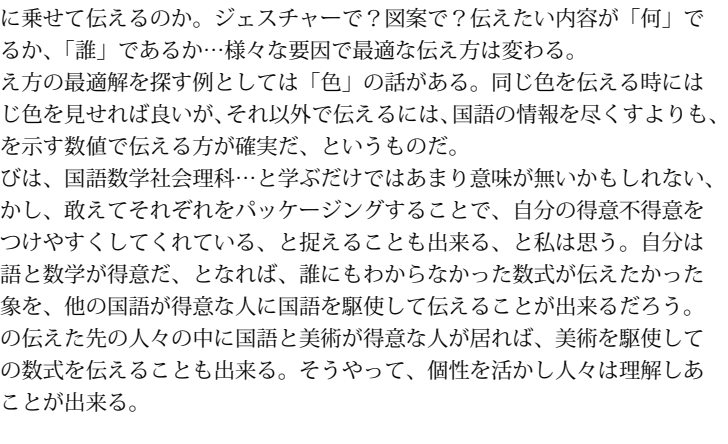
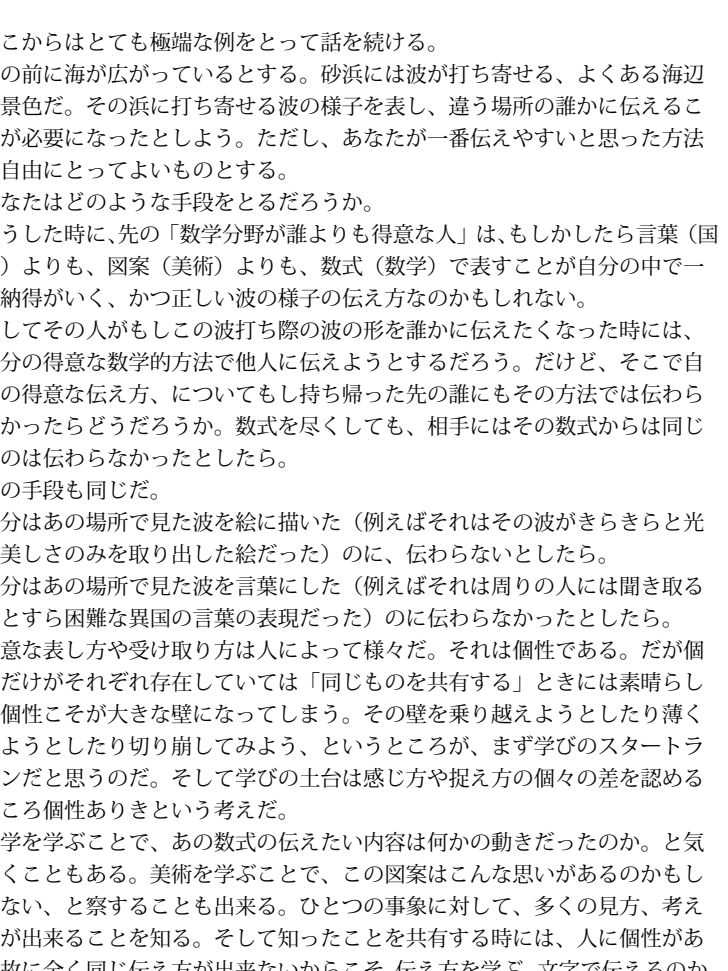
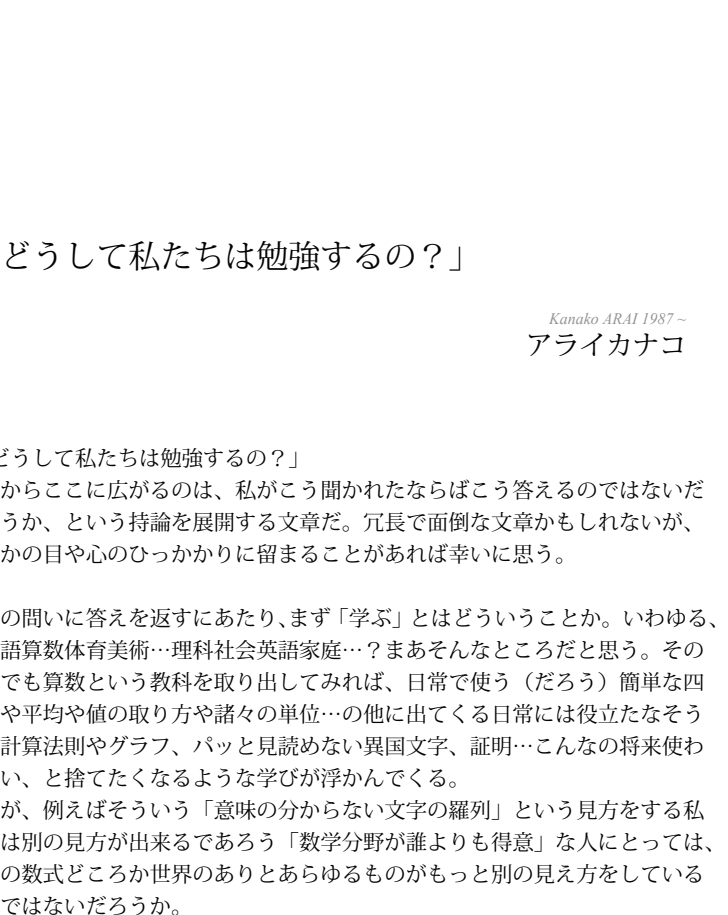
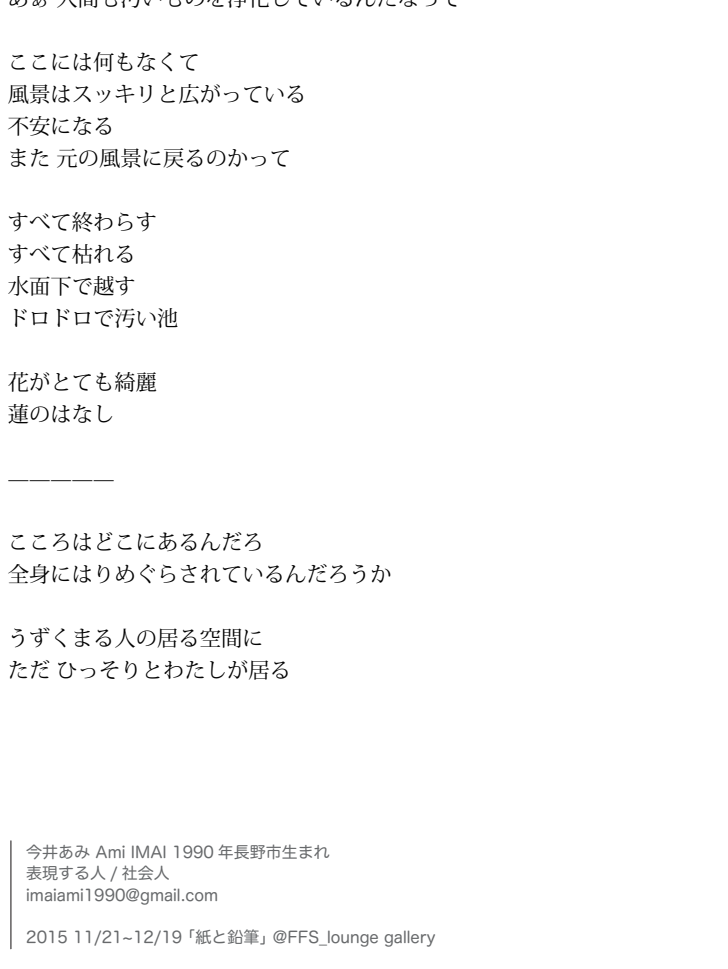
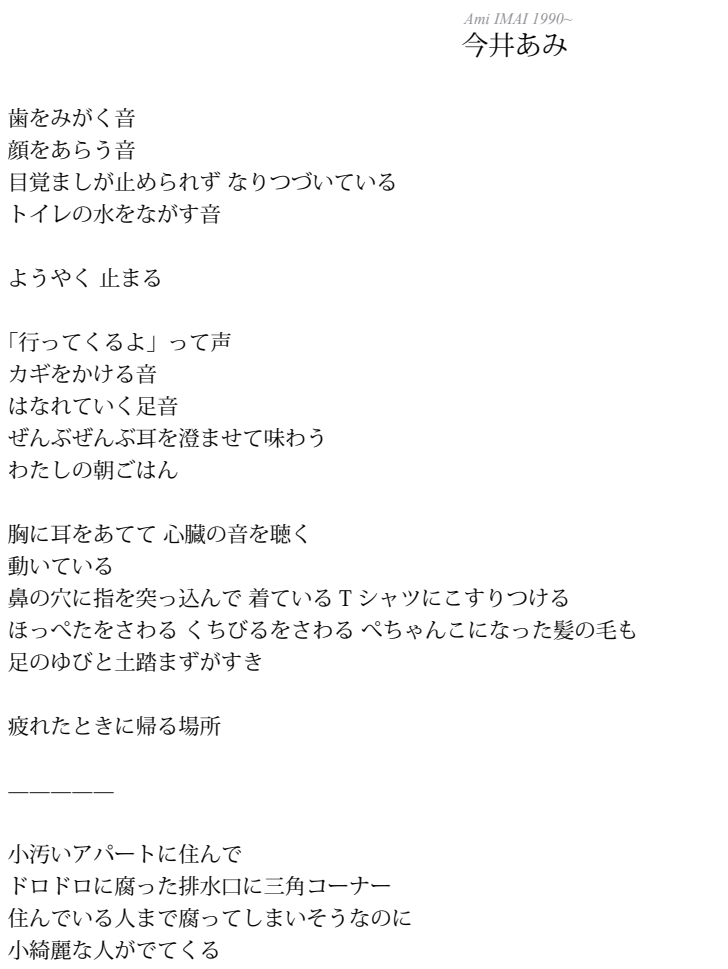


彼女と初めて会ったのは私が大学2年生の時、ちょうど今日のような新年の季節だった。いや、同じ年だった上の学年にいたから正確にはもっと前に逢ったのだのかもしれないけど、ずっと女子学生だった彼女はそのらの付き合いで忙しく、科の集まりに全く顔を出していなかったんだ。

あの日、単位のためと仕方なく受けていた気合い満張りが終わる時何事もごとく溜まり場の研究室に入るとそこに、ランバン車と思わせるような濃い紫色の髪をした彼女が座っていた。

「あれ？・こんにちは・」

わたしの朝ごはん



分枝

branching
http://branching.jp
branching 13 publish 09/December/2013

異傾悟

